

課 題	三里浜砂丘地のモモ栽培における果実品質向上試験	
担 当 者	藤井 美希	
目 的	三里浜砂丘地では平成 29 年にモモの栽培を開始し、令和 2 年より出荷を開始したが、樹勢が弱く、摘果しても小玉化して可販収量が少ないことが問題となっている。そこで、現地圃場において、幹周に応じた適正着果量を検討する。	
供 試 品 種	日川白鳳	
試験区構成	1 区 着果量 35 個/樹 (幹径 10cm あたり) 2 区 着果量 40 個/樹 (幹径 10cm あたり) 幹径：地面より 30cm の位置	
区制及び株数	1 区制 1 区	
耕 種 概 要	試験圃場	三里浜砂丘地圃場
	栽植密度	モモ 5m×5m 40 樹/10a
	施肥量	堆肥：牛糞もみ殻堆肥 120L/樹 元肥：粒状固形肥料 30 号 N:P:K=10:10:10 (日本肥糧株式会社) 3 月 17 日 1.3kg/樹、4 月 20 日 1.3kg/樹 追肥：スーパーニトロ 580 (新東化学工業株式会社) 5 月 11 日 350g/樹、9 月 22 日 800g/樹
	分量	N0.43 - P0.47 - K0.38 kg/樹
調査項目	生育調査	幹周 (肥大率)
	収穫物調査	果実径、果実重、糖度
期待される効果	果実品質の向上、可販収量の増加	

結果及び考察

各区について、5 月 19 日に幹径を計測し、その値をもとに試験区のとおり着果数を算出し、5 月 25 日に摘果を行った (表 1)。摘果後、継時的に果実の縦横径を計測した後、7 月 6 日に収穫物調査を行った。調査結果は以下のとおりである。

- 1 果実径の経時的推移を表 2 に示した。果実の縦径と横径の平均値を算出し、1 区と 2 区を比較した結果、5 月 25 日から 7 月 6 日にかけて、1 区は 4.7cm、2 区は 4.4cm 大きくなり、1 区の方が、若干大きく生長した。
- 2 収穫物調査結果を表 3 及び図 1 に示した。7 月 6 日に収穫し、各区 6 果ずつ平均的な果実について、果実重と糖度を測定した結果、1 区の方が果実重が重く、大きい果実が収穫できた。糖度は 1 区と 2 区で差はみられなかった。日川白鳳の一般的な果実重は 200~250g、糖度は 12° 前後であり (参考：農林水産省 品種登録データベース)、果実重については、1 区は基準超えて 2 区は基準内、平均糖度については両区とも基準を超えていた。
- 3 幹径の調査結果を表 4 に示した。2 月 1 日に各区の幹径を計測して 5 月から 2 月の肥大率を算出し、着果数による樹の生長への影響を調査した。その結果、着果数が多い 2 区の方が幹径の肥大率が高かったため、両区の着果数では樹の生長への影響はみられなかった。

以上の結果から、1区の方がより大きい果実を収穫できたが、平均糖度は1区と2区で差がなく、また肥大率への影響を調べたところ樹の生長への負担がみられなかったことから、収穫量を確保するためにも、2区の着果数が適正であることが示唆された。今後、試験結果を摘果の指導に生かしていく。

表1 幹径及び着果数

	5月19日 幹径 (cm)	着果数	
		摘果前 5月19日	摘果後 5月25日
1区	5.2	225	18
2区	4.2	190	17

表2 果実径の経時的推移

	平均果実径 (cm)		
	5月25日	6月8日	7月6日
1区	3.5	4.6	8.2
2区	3.3	4.3	7.7

表3 平均の果実重及び糖度

	平均果実重 (g)	平均糖度 (°)
1区	272.3	13.7
2区	227.3	13.7



1区



2区

図1 各区の平均果実

表4 幹径の調査結果

	平均幹径 (cm)		肥大率
	5月19日	2月1日	
1区	5.2	6.0	1.2
2区	4.2	5.8	1.4

* 肥大率 = (2/1の平均幹径) / (5/19の平均幹径)